



学校教育目標：校訓「至誠」を胸に、未来に挑む子供の育成

## 梅雨に学ぶ

校長 岩元 輝美



5月も半ばとなりました。最初は学校生活に慣れることに一生懸命だった1年生が教室を隣とする6年生のサポートもあり、徐々に小学校の生活をしっかりと送ることができるようになりました。2年生から6年生もそれぞれ新しい仲間や先生、環境の中で、元気いっぱい学習や諸活動に取り組んでいます。特に6年生は、最上級生としての意識をもって、委員会活動や縦割り班活動などに積極的に関わっています。与論小学校をより活発で、居心地のよい温かい場所とするための原動力となっており、とても頼もしく感じています。一年間、自主的に、そして積極的に与論小学校のリーダーとしての活動を充実させ、自信と誇りを身につけて中学校へ羽ばたいてほしいと思います。すべての子供たちが年度初めに立てた一人一人の目標を常に意識しながら、発達段階に応じた精一杯の取組ができるよう、全教職員で支援していきたいと思ひます。

さて、いよいよ梅雨のシーズンに入りました。梅雨に入ると雨の日が増え、傘やレインコートでの登校となります。そんな中でも友達と楽しくおしゃべりしながら、雨を楽しみながら登校する姿は微笑ましくもあります。ただ、足や肩が濡れていたり中には頭まで濡れていたりする子供が見られ、すぐ拭かないと風邪をひいてしまうぞと心配になります。すると、カバンからタオルを出して拭いたり、準備していた替えの靴下に履き替えたりしている姿を目にします。そんな時、「そうそう」と心の中で呟きます。保護者の準備もあると思ひますが、雨に対する子供たちの知恵が付いていると感じます。



一方、雨になると車で送ってもらう子供が増えます。雨の状況によって違うのですが、「いい経験の場なのになあ」と少し残念に思うこともあります。1年生では、生活科の授業として雨の日の学校散策をします。雨の日の光景・音・におい・水や土の感触など五感で捉える学習です。また、中学年の詩や高学年の俳句の学習など季節の変化を捉え表現する学習もあります。さらに理科で天気の変り変わりの学習をします。日々の生活の中で、天気予報を見て、「今日は午後から雨みたいだから、傘を持って雨靴で行こう。」と考えたり、傘を忘れた友達や下級生を思いやる気持ちが芽生えることもあります。体験を通して考え、知っていること(知識)を具体的な生活の場に生かす知恵になることが本当の学習と言えます。子供の教育は、家庭や学校だけでなくあらゆる機会を通してできるものです。また、教えるのではなく、気付かせ自分で実践させることがとても大切です。かわいそうと思う気持ちが、かえって子供の成長を邪魔することもあるかと思ひます。

なお、雨の時期の安全については、学校でも指導しますが、家庭でも御留意いただきたいと思ひます。また、通学路の安全点検を子供さんと一緒に行うのも危険回避能力育成に大変有効です。子供たちの安全・安心な登下校につきまして、保護者の皆様、地域の皆様の御理解と御協力をよろしくお願ひします。

### ○雨具使用時の注意事項等

- ・傘やレインコートはなるべく明るい色のものが望ましいこと
- ・傘を差すときは前が見えるような角度で持つこと
- ・二人で傘を差して歩くときは、できるだけ1列になって歩行すること
- ・傘遊びをしたり、水かさの増した側溝等に足を入れたりすると大変危険であること
- ・レインコートのフードは視界が狭くなるため一層注意すること
- ・風が吹くときは、レインコートを使用したり傘を両手でしっかり持ったりすること

### ○通学路の水量に注意すること

- ・水が勢いよく流れる側溝には近づかないこと
- ・冠水した道路に注意すること

